

試験研究評価シート（事前）

評価の種類	事前評価			担当名	
課題名 (研究テーマ)	デング熱等の蚊媒介感染症対策についての研究			保健科学担当	
研究期間	平成29～30年度	予算額 (千円) 513	次年度 (千円) 513	予算種類	国補(県単) その他()
必要性	<p>地球温暖化や国際交流の活発化に伴い、海外で蚊媒介感染症の流行が拡大している。日本でも、平成26年にデング熱の国内感染例が確認されたことや、世界保健機関（WHO）がジカウイルス感染症について緊急事態宣言をしたことを受け、蚊媒介感染症対策が強化されている。なかでも、デング熱、チクングニア熱及びジカウイルス感染症については、重点的な対策が必要であり、これらの感染症を媒介するヒトスジシマカの生息状況を把握しておくことが、感染症の拡大防止に繋がる。さらに、臨床検体からの迅速な病原体検出や媒介蚊のウイルス保有状況調査を行うことで、蚊媒介感染症の発生予防とまん延防止に繋げる。</p>				
目標	<p>デング熱、チクングニア熱及びジカウイルス感染症は、発熱と全身の発疹を特徴としており、鑑別疾患としてあげられている。そこで、これらの感染症の発生を迅速に把握するため、臨床検体からの病原体遺伝子検出の迅速化を図る。また、蚊の生息調査によって得られた基礎データを集積し、媒介蚊の防除に繋げる。加えて、媒介蚊からの病原体遺伝子検出方法を確立し、媒介蚊のウイルス保有状況調査の体制を整える。</p>				
研究内容	<p>臨床検体からの病原体遺伝子検出方法を検討し、迅速化を図る。また、蚊の生息調査を行い密度調査等のデータ集積を行うとともに、捕集した媒介蚊のウイルス保有状況を調査する。</p>				
手法	<p>①PCR法による臨床検体からの病原体遺伝子検出方法について、3つのウイルス（デングウイルス、チクングニアウイルス、ジカウイルス）を同時に測定できる方法を検討し、従来法と迅速性、正確性、検出感度等について比較検討を行う。</p> <p>②人が多く集まり、かつ蚊の生息好適地である場所を調査地点とし、定期的に蚊を捕集し、蚊の生息調査を行う。捕集した媒介蚊については、PCR法を用いてデングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルスの保有状況を調査する。</p> <p>③臨床検体や媒介蚊からウイルス検出された場合は、HPやパンフレット等を通じて県民に注意喚起や予防啓発を行う。</p>				
その他					